

2025 年 4 月 23 日

■+■-----
+■┘ 中部防災推進ネットワーク
メールマガジン Vol.55
■┘-----

各 位

中部防災推進ネットワークの参画メンバーの皆さまに、
メールマガジン（2025 年 4 月号）を配信します。

※メールマガジンのバックナンバー、これまでの会合の
発表資料等は中部防災推進ネットワークホームページに
掲載しています。

<中部防災推進ネットワークホームページ URL>
[http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-
nw.html](http://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/chububosai-nw.html)

1. 会長 2025 年度初めのご挨拶

中部防災推進ネットの構成員の皆さま、日ごろから当地
の防災減災への多大な貢献、誠にありがとうございます。

新たな年度を迎え、異動された方も多いと思いますので、
まず、研究会の発足の経緯を説明させていただきます。

この研究会は、2019 年に名古屋で開催された防災推進国
民大会において、国・県・市の連携、官民の連携の大切
さが議論されたのを受け、地域における産官学民の連携
を促進するために設立されました。

内閣府を始めとする国の機関、県、市、業界団体が、平
時から顔が見える関係を築くことで、災害被害を軽減す
ることを目指しています。

どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この 1 年間、防災・減災の周辺状況は激変しました。

昨年の日元に起きた能登半島地震では、4 月 21 日時点で、228 人の直接死と 356 人の災害関連死が報告されています。

関連死については、認定待ちの方が 200 人以上いますので、最終的には死者は 800 人程度になる可能性があります。

この地震では、半島先端という地理的状況、高齢化した過疎地という社会的状況、真冬の元日の地震と言う季節的状況が複合し、大きな被害となりました。

強震、火災、液状化・土砂崩れ、津波などに見舞われ、秋には豪雨災害も起きました。これは、南海トラフ地震のミニチュア版と言えるもので、この地震の教訓を学び、南海トラフ地震対策を本格化させる必要があります。

また、8 月 8 日には日向灘で地震で、初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。聞きなれない情報に戸惑った方も多かったようですが、おかげで、臨時情報の周知には役だったようです。

能登半島地震を受け、中央防災会議の傘下に、令和 6 年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループが設置され、昨年 11 月に報告書が取りまとめられました

（https://www.bousai.go.jp/jishin/ното/taisaku_wg_02/index.html）。

また、一昨年に設置された南海トラフ地震対策検討ワーキンググループでは、12 年ぶりに被害想定が見直され、新たな対策方針が 3 月末にとりまとめられました。

報告書全体で千ページを超える大部のものです

（https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku_wg_

02/index.html)。

要約もありますので、是非一度、ご覧頂ければと思います。

残念ながらこの 10 年余りの対策は不十分で、被害は殆ど軽減されませんでした。甚大な被害を前に、行政の限界が明らかとなり、官民連携による総力結集と、被害軽減のための事前防災が重要になります。

今年度からは、報告書に指摘された課題に対して、改善策を検討していくことになります。夏ごろには、南海トラフ地震対策推進基本計画が改定される見込みです。

また、今年 1 月には、内閣官房に防災庁設置準備アドバイザー会議が設置され、防災庁設置のための検討が行われています。

こちら夏ごろをめどに中間報告が取りまとめられる予定です。

ここでの主要な論点は、本気の事前防災と、司令塔機能の抜本的強化にあります。

すでに、内閣府防災は、この 4 月に人員と予算が倍増され、防災対策の推進の体制が強化されています。

中部防災推進ネットワークでは、他地域に先駆けて、様々な試みが行われています。

その成果は、内閣府防災と愛知県により 2 月にステーション AI で開催された防災×テクノロジーでも表れており、弱みを強みにする防災ビジネスへの期待も高まっています。

あらゆる組織が事前防災に注力して被害を減らす努力をすると共に、日ごろから産官学民が連携することで、災害発生後に地域の力を結集して早期に復旧・復興ができるよう、準備をしておきたいと思います。

本年度も、従前以上に活発に活動をしたいと思いますので、どうぞ協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(中部防災推進ネットワーク 会長 福和伸夫)

2. 本ネットワークの参画団体からのお知らせ (防災イベントの予定等)

(1) 一般社団法人 日本損害保険協会 (再掲)

○イベント名

親子で学ぶ 防災・減災ピクニック 2025

○開催日時

令和7年5月31日(土) 9:00～12:30

【受付8:45～】

※参加費無料

※要事前申込(申込方法はURLご参照、締切5/14)

※定員(20組40名)を超えた場合は抽選

○開催場所

名古屋大学東山キャンパス

※受付は名古屋大学博物館

○概要

福和先生にナビゲーターをお願いし、今後30年以内に発生すると言われている南海トラフ巨大地震などの自然災害について、親子で体験・体感しながら防災・減災を学ぶことにより、家族の防災力を高めることで、将来に備えるためのプログラムです。ぜひご参加ください。

※申込はこちらからお願いします。

<https://forms.office.com/r/UGX63LvzGz>

※会員企業の皆様にもぜひご案内・ご参加ください。

3. 編集後記(事務局・協力団体のひとこと)

業界団体ではありますが、本ネットワークの事務局を

しております、日本損害保険協会のです。

今回は弊会の防災取組みの1つ、
「ぼうさい探検隊マップコンクール」をご紹介します。

これは防災・防犯・交通安全をテーマにして、小学生が
まち歩きしながら、気づいたことをマップにまとめて発
表する教育プログラムであり、作成したマップを応募い
ただければ参加賞もありますし、特に優れた作品であれ
ば、「文部科学大臣賞」や「防災担当大臣賞」などが贈呈
されます。

毎年、全国約400～600の団体から応募いただいております、
弊社では、ぼうさい探検隊で得た地域の気づきを元に行政等への要望・提言なども実施しております。

もし、自団体の子ども向けの防災イベントでぼうさい探
検隊をやってみたい等のご要望がございましたら、ぜひ
お声がけください。

また、中部防災推進NWメンバーご自身のお子様の夏休
みの自由研究などでも、ぜひ参加をご検討いただけます
と幸甚です。

弊社では、引き続き、色々な機関・団体と連携しながら、
防災・減災の取り組みを実施します。

ぼうさい探検隊以外にも、こういうイベントでコラボし
ようよ、といったお話などございましたらお声がけくだ
さい。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。